

都市ブランド教育委員会
報　告　資　料
令和８年８月６日
教育委員会企画調整課

北九州市みらい学校デザインの着手について

1　これまでの経緯について

- 令和７年１月　総合教育会議　「北九州市型みらい教育デザイン」の発表
- 令和７年１１月　常任委員会報告　「新たな時代の教育デザインの構築について」
- 令和７年１２月　総合教育会議　「新たな学校のイメージ」の具体化
- 令和８年６月　X 方針報告　（課題 C）「新たな時代の教育デザイン」

2　「みらい学校デザイン」の詳細

①　なぜ、いま「みらい学校デザイン」が必要なのか

- 学校を取り巻く社会課題の複雑化＋様々な特性を持つこどもたちの多様性など
  ⇒これまでの教育のあり方を変化させる必要性
- 「みんな一緒に、同じペースで、同じこと」⇒「それぞれのペースで、自分の学びに」

②　「新しい学び」

- こどもの理解度等に応じた学び、個々の興味関心を踏まえた自分なりの価値観・哲学
  ⇒**「個別最適な学び」**
- 多様な人材との協働、他者への思いやりや多様性の理解⇒**「協働的な学び」**
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる
  ⇒**「正解のない」と言われる時代を生きる力の育成**

③　小中一貫教育

- ９年間を見通した系統的・連続的な教育⇒学習意欲・学力向上、よりきめ細やかな学習支援
- 異学年交流⇒コミュニケーション能力の向上、自尊感情・思いやり・助け合いの心の醸成
- 小中の教員連携⇒個々の状況に応じた継続的な指導・支援
- 小中ギャップの解消

④　具体の学校施設イメージ（施設一体型小中一貫校）

- 学校の中心に配置する「マルチメディアセンター（学校図書館）」
- 広いスペースと様々なアウトプットの手段により多目的な活動と学びを拡げる「普通教室」
- 教職員のウェルビーイングを高め、働きやすさと働きがいを生む「教職員ラウンジ」

3　今後の進め方について

○ 候補エリア選定

・エリアの特性（①教育効果、②地域連携支援体制、③コミュニティハブ機能など）を参考に 10 エリア程度の候補地を選定

○ モデルエリア決定

・候補エリアからの提案や協議及び第三者による検討会から意見を聴取し、モデル校として整備する１～２エリアを決定

○ 基本計画→基本設計→実施設計→建設→開校（令和 14 年度目途）

別添資料



KITAKYUSHU

北九州市みらい学校デザイン

FUTURE SCHOOL DESIGN

なぜ、いま「みらい学校デザイン」が必要なのか。

こどもたちを取り巻く
社会環境の変化、複雑化



教育のあり方の転換

これまで　みんな一緒に、同じペースで同じことを。

一斉授業

教員中心の知識を伝授する学習

今、これから

それぞれのペースで、自分の学びを。

個別最適な学び　**協働的な学び**

なぜ、いま「みらい学校デザイン」が必要なのか。



個別最適な学び

様々な授業形態によって
一体的に充実



協働的な学び

➡ 正解のない時代に生きる力

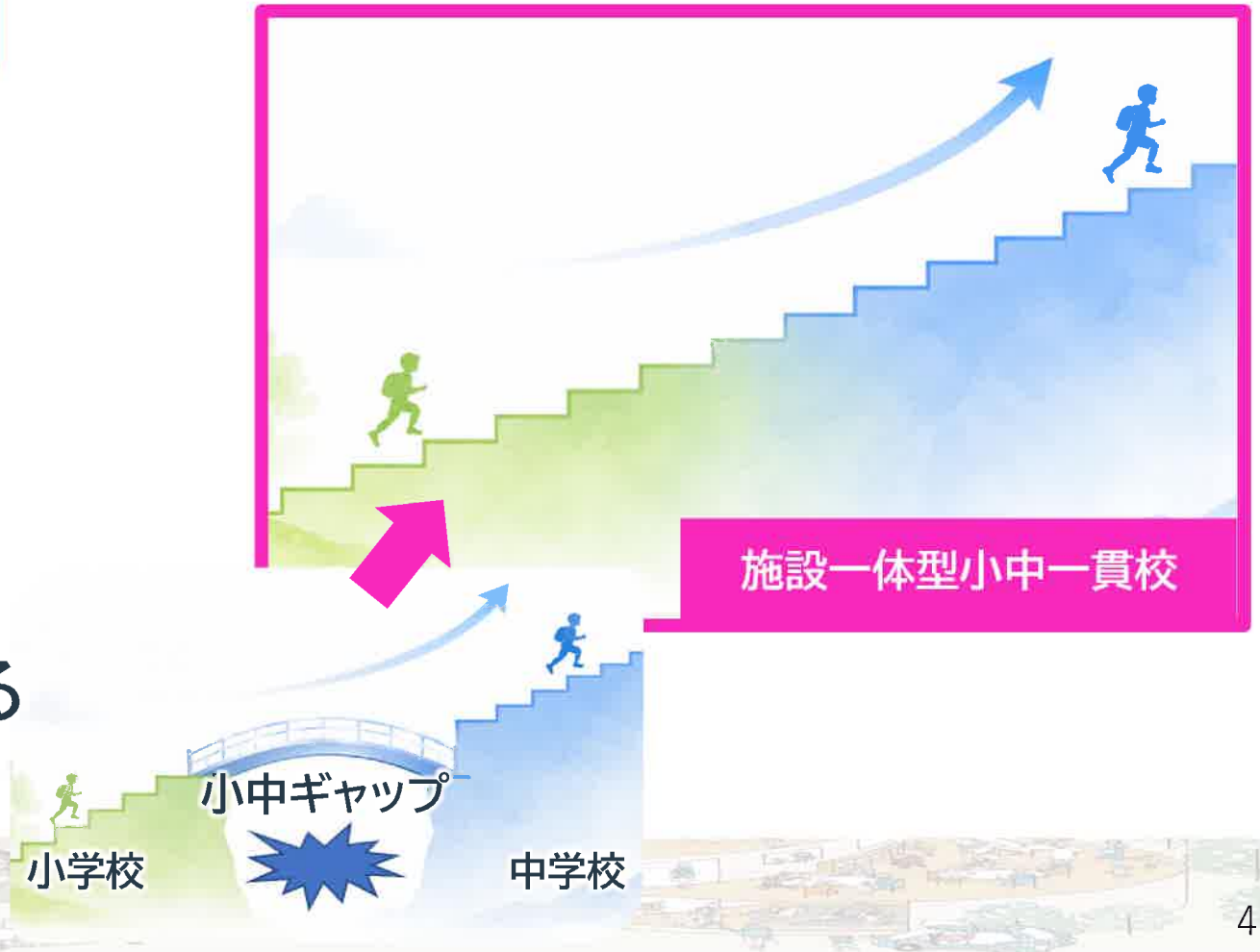
自ら進んで学び続けるこども

「伸びしろ」のあるこども

小中一貫教育

小中一貫（9年間）の
切れ目ない 学び

小・中学校教員が、
チームを組み
継続的な学びを支える



みらい学校デザインでつくる「新しい学校」

新しい学び × 小中一貫教育 × 新しい学校施設

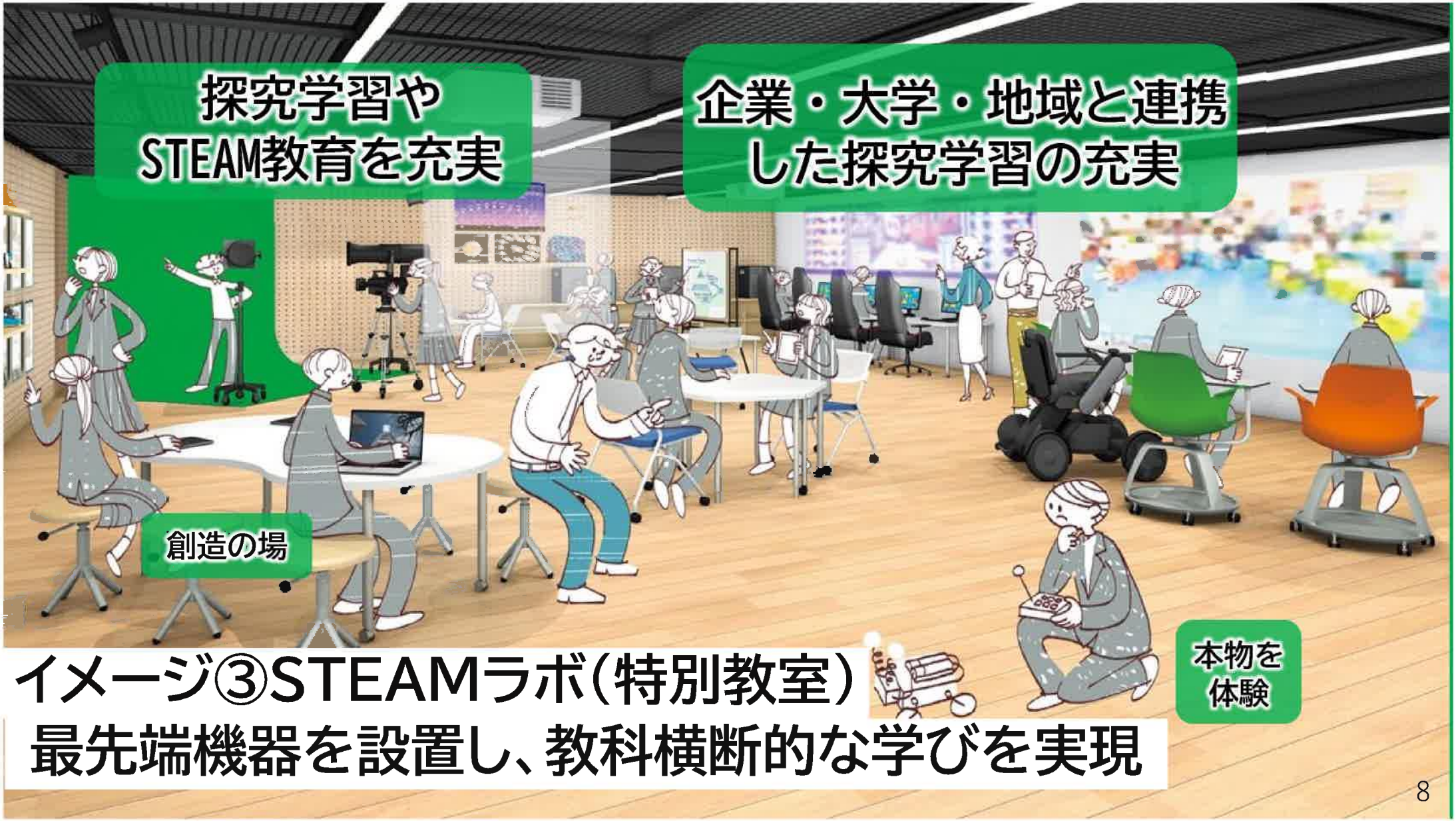
◎3つの相乗効果により
学校を多様で魅力的な教育環境へアップデートする



イメージ①（マルチメディアセンター）
学校の中心に「知の拠点」を設置



イメージ②（普通教室）
ひとりひとりにあった学びができる空間



イメージ③STEAMラボ（特別教室）

最先端機器を設置し、教科横断的な学びを実現



イメージ④（教職員ラウンジ）
ひとつのチームとしてパフォーマンスを最大化

こどもと地域がつながる拠点



みらい学校デザイン・モデル校への選定プロセス

❶ 候補エリア選定

①教育効果
②地域連携支援体制
③コミュニティハブ機能
など

10エリア程度



❷ 候補エリアからの提案・協議

❸ モデルエリア選定検討会

意見聴取

❹ モデルエリア選定

モデルエリアの選定

❺ 開校準備委員会（仮称）

❻ 基本計画の策定

❼ 基本設計・実施設計

❽ 建設着手・竣工

❾ モデル校　開校

令和14年度目途　開校